〝還暦おやじ〟の新人農業者手帳

▼新琴似屯田兵中隊本部前にて

一、現代の屯田兵になる!!

新琴似神社の隣りに新琴似屯田兵中隊本部の建物があるのをご存じの方々も多いと思います。昭和49年に札幌市指定有形文化財になっています。その年私は札幌北陵高校に進学しました。当時高校生人口が増加し高校新設が迫られる中、道立のモデル高校として開校した私の母校ですが、屯田の校舎建設が間に合わず、旧札幌一条中学校の校舎（現・東区市民ギャラリーの位置）を仮校舎としていました。第三期生だった私は、新校舎完成までの4月から12月まで9ケ月間バス通学し、当時中央バス車窓から毎日見ていたのがその屯田兵中隊本部の建物でした。

「この辺は屯田兵が開墾した土地なんだ…」というのが私の記憶であり、爾来40年間ただ通り過ぎてきましたが今年5月、ようやく訪ねました。きっかけは農作業に起因する身体の痛みで近くの病院受診に併せて見学したのです。

明治8年開村第一号の琴似兵村は高校の授業で訪れていましたが、明治21年に開村した新琴似兵村本部を訪ねるまで42年かかりました。道内に全部で37兵村ができましたが、明治29年旧陸軍第七師団が編制されると「兵農相兼ヌルノ制」であった制度が否定されることになり明治37年9月8日廃止されました。

新琴似兵村は屯田兵第一大隊第三中隊の二百二十名で編制されました。その中隊本部は現在資料館で、展示資料を読んで驚いたことに、中隊員の約85%が福岡、佐賀など九州出身者でした。私の故郷石狩の南隣り新琴似と屯田は九州出身者で開墾された土地だったのです。命名から百五十年、松浦武四郎が「北加伊道」と記した大地の中心を札幌に決めた開拓判官島義勇も九州佐賀の人です。因みに私の妻は佐賀県出身です。

第三代中隊長の安東大尉は、当時泥炭地で作物があまり採れなかった土地の改良に取り組み、安春川を開削しました。この事業で排水がよくなり新琴似大根が盛んに栽培されるようになりました。屯田に移転した高校の新校舎まで毎日安春川を渡り通学しましたが、今や開墾された畑がすっかり住宅密集地に変わっています。川の名前は安東中隊長と開削工事責任者だった春山氏の一字ずつをとって命名されています。往年の新琴似大根も〝石狩大根〟にブランドが変わり、私達が生産している訳です。

▲石狩大根

防衛大学校学生だった頃よく言われたことがあります。それは「おまえは屯田兵の子孫か??」という問いかけでした。残念ながら私は屯田兵と縁のない道民ですが、先輩や同僚のそうした問いかけが屯田兵を意識させる結果となりました。平時は食料生産と教育訓練に励み、いざ有事には武器を手に国防の任に就いた屯田兵。時代は変わり、発足から半世紀以上憲法違反論争の渦中にあった自衛隊。定年退職した今、自分は〝現代の屯田兵〟ではないかと感じています。野菜栽培に取り組む傍ら「国の守り」という思いが継続しています。おそらく二度と武器を手にすることはないでしょう。しかし災害派遣以外のことで容易に理解してもらえない自衛隊員と市民の間の〝同時通訳者〟という役割、それこそがこれからの屯田兵に違いない、というのが私の持論です。

二、花畔屯田兵村本部…

私は東千歳駐屯地で第七師団司令部の一員として定年退職しました。屯田兵制廃止のきっかけが旧軍第七師団であるなら、現代の屯田兵の始まりが陸自唯一の機甲師団七師団かもしれません。私はまさに現代の屯田兵なのです。

陸自第７師団の記念行事にて▶
（H30.5）

▼花畔屯田兵村本部

そんな訳で第38番目となる花畔屯田兵村本部をユウサン・フアーム内に置くことにしました。何はともあれ、、、言った者勝ちですよね。（了）

（平成三十年八月十日記）

JAいしかり
2018年9月号 Vol.354 2018年9月11日発行 発行／石狩市農業協同組合 〒061-3361 北海道石狩市八幡2丁目332-11
TEL:(0133)66-3321 FAX:(0133)66-3131
ホームページ：http://www.ja-ishikari.or.jp